

もつと闇を照らす光を描こう。
もつと神獣を描こう。
死の世界と闇が、
見る人の魂の光を浮かび上がらせるように。

私は、ずっと絵を描き続ける。

小松美羽著 「世界の中で自分の役割をみつめること」

より



小松美羽プロフィール

1984年長野県坂城町生まれ。幼少期より自然豊かな環境で様々な生き物と触れ合い、その死を間近で見届けてきた経験から独自の生死観を構築、死の美しさの表現を目指す。2003年女子美術大学短期大学部へ入学。線の美しさに惹かれ銅版画の制作を始める。20歳の頃に制作した銅版画「四十九口」はその技術と作風が高い評価を受け、プロ活動への足がかりとなる。近年は銅版画の他に、アクリル画や焼き物への絵付けなど制作の幅を広げ、死とそれを取り巻く神々、神獣、もののけをより力強く表現している。

2014年、出雲大社に「新・風土記」を奉納。2015年、庭園デザイナー石原和幸氏とのコラボレーション作「EDO NO NIWA」を、英国王立園芸協会主催「チェルシーフラワーショー」へエントリーし、ゴールドメダルを受賞。同作内の有田焼の狛犬作品「天地の守護獣」は、大英博物館日本館へ永久展示されることが決まり、国際的に注目を集める。2016年、ニューヨークにて「The Origin of Life」を発表。同作は4ワールドトレードセンターに常設展示されている。2017年、東京ガーデンテラス紀尾井町にて個展を開催し、9日間で3万人を集め、会場史上最大の集客を果たす。台湾「Whitestone Gallery Taipei」での個展も、3万人以上を集客、計100万ドル以上の作品を完売する。同年、劇中画を手掛けた映画「花戦さ」が公開されたほか、SONY「Xperia」のテレビコマーシャルに出演。2018年、北京で開催されたアートアワード「Tian Gala 天辰 2017」にて「Young Artist of the Year 2017」を受賞。画集に『小松美羽 -20代の軌跡- 2004 - 2014』(KADOKAWA)がある。2018年、自身初のエッセイ「世界の中で自分の役割をみつめること -最高のアートを描くための仕事の流儀-」(ダイヤモンド社)を発刊。

Chouyou-Nihonmatsu Art Festival
重陽の芸術祭2018